

ハイエナの夢

彼は、まさしくハイエナだった。輪姦現場から暴行者たちが去った後に、残された犠牲者を更に毒牙に掛ける。しかし、今回は全く異様な光景が展開されていた。連れ込まれた美少女は突如怪物化して、暴徒たちに襲い掛かって皆殺しにした。その後、もう一人の女が現れて、美少女と何やら争った末に倒れ、美少女は動かない両足をひきずりながら腕だけの歩行で去って行った。

物陰から這いずり出した彼は横たわる女に歩み寄った。女は虚ろな表情のまま、手足が小刻みに震えている。彼は女の唇にキスした。すると、不思議なことが起こった。めくるめくような性の快感が全身を走りぬけ、彼は何度も何度も射精した。

こんな体験は初めてだ。彼は著しく消耗してふらつく身体で歯を食い縛りながら女の身体を運び出した。廃店舗の側に止めてあった車に女を押し込む作業を終えた時には、息が切れてしばらく動けなかった。やっとのことでエンジンをかけ、睡魔と闘いながら運転して自宅のアパートに帰った。幸いにして、女を肩に担いで入室するところを目撃した者は皆無だった。

彼はただ恋人が欲しかっただけだ。しかし、どんなに望んでもどんなに願っても、一向に出会いの機会に恵まれることなく、彼は欲望と寂しさのままに歪んだ道に走った。

一度道を踏み外すと、もはや後戻りはできない。人間としての感性が麻痺して、打ちひしがれた犠牲者を犯すことに何の罪悪感も感じなくなってしまっていた。

そして彼は、ついに運命に出会った、と思った。その美しい女は、無上の快樂をもたらしてくれる。もうやめられなかった。何度も何度も射精して、しまいには精液が出なくなって、彼の陰茎は大量の血液を撒き散らした。それでもやめられない。

性体験を味わえるラミウザの機能は本来、改造人間専用であり、生身の人間相手では刺激が強すぎるのだ。僅か数秒の接触で生命に危険が及ぶほどの腎虚に陥る。嶋野聖香が死亡した後も、ボディは停止せずにエネルギーが残っている間だけその機能が作動していたのだ。

破滅的行為を幾度か繰り返した彼の心臓は急速に生命力を失い、やがて息を引き取った。

数日後、異臭がするとのアパートの住人からの通報を受けた警察が、ベッドの上に等身大の人形と手を繋いで寄り添う男の腐敗した遺体を発見した。

ラミウザのボディは、脳と一部の生体部分は腐敗が進行していたが、それ以外の部位はほとんど損傷もなく、まさしく遺棄された人形のようなであった。

